



漕ぐのに必死!「港川ハーレー」

交流、実践

香南市×八重瀬町

先月号でお伝えした、姉妹都市である沖縄県八重瀬町との職員交流で香南市へ来られていた屋嘉比健作さんと同じく、八重瀬町から伊藤正和さんが11月末をもって半年間の派遣期間を終え、香南市へ戻ってきました。環境対策課配属の滞在中に伊藤正和さんが「見て感じた八重瀬町」をお届けします。

なにより、役場・出演者・地域が一体となり、イベントを通して八重瀬町を盛り上げていくという素晴らしい輪の中に参加することができて、大変良い経験をさせていただきました。

また、八重瀬町の皆さんは太陽のように明るく、とても優しくしてくださいました。まちで出会った人見たもの・聞いたこと



香南市 伊藤 正和

八重瀬町 屋嘉比 健作さん

伊藤正和

と、すべてが私の一生の宝物です。これからは香南市と八重瀬町の交流がますます活発に行われることを願い、私自身も派遣された職員としてその一助になればと思っています。

八重瀬町から「ただいま」

八重瀬町では企画財政課に所属して、色々なイベント・行事に参加させていただきました。大好きなマンゴーの収穫体験、腕がパンパンになった港川ハーレー。見るもの聞くこと、すべてが新鮮でした。

その中でも大役だったのが、10月に開催された「やえせまつり」でした。私は舞台進行係をさせていただきました。沖縄県では、民俗芸能や伝統芸能が盛んで、八重瀬町でも各地区でエイサーや獅子舞・棒術などが盛んに行われています。このイベントではなんと54もの演目が披露され、進行には四苦八苦しましたが、まちの民俗芸能に深く関わることができ、とても勉強になりました。

Special Interview

聞いてみました、派遣職員が感じた「お互いのまち」

(伊・伊藤、屋・屋嘉比さん)

■滞在中で思い出深かったことは？
 伊：6カ月の間にたくさんの人に出会えたこと。一番の宝物です。
 屋：八重瀬町のみなさんの温かさです。とてもよくしてくださって本当に嬉しかったです。

■それぞれお気に入りの場所ってありましたか？
 伊：香南市の大きな山々、川、田園風景、どれも大好きです。
 屋：海・空・町並み・サトウキビ畑：八重瀬町全部です。

■美味しかったお気に入りの食べ物？
 伊：あゆ(特に刺身)、あめ、鰹、土佐巻きなど。沖縄では川魚は食べることがないのです。
 屋：八重瀬町に行く前から楽しみにしていたマンゴー。忘れられない味でした。

■滞在中に印象に残った「自分のまちとの違い」は？
 伊：沖縄は守礼の邦(しゅれいのくに)・礼節を重んじる国として、おもてなしができる島としての自負がありました。香南市の皆さんのおもてなしなどに対する心意気はスケールが大きくて感動しました。また、他所から来た私をやさしく受け入れてくれたまちの皆さんの懐の深さに感激しました。

伊：方言は外国語のように聞こえましたが、気をつかって分かる言葉で話してくださいました。私の土佐弁の方がちゃんと伝わっているのが心配でした。

■また行きたい(来たい)ですか？
 伊：はい！

お二人とも半年間お疲れ様でした。これからもそれぞれのまちで姉妹都市の懸け橋として活躍ください。



デハラユキノリさんにフィギュアの塗り方を教えてもらったよ!



のいち動物公園スタッフさんのボディペインティング。かわいいでしょ♪

上手につかめるかな?



ゆっくりしていいね~



キャー! こーにゃんかっこいいー!



人権啓発フェスティバルについて詳しくは22ページをご覧ください



おいしくできてる?

